キャラクター名
フリードリヒ・ラハマン

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス ノイマン	ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	レネゲイド災害緊急対応班
オプショナル	ハヌマーン	年齢	37	性別	男
覚醒	探求	衝動	憎悪	初期侵食率	36 %
出自	プロイセン/名家の生まれ	経験	マルコ班への入隊	邂逅	前隊長：矢矧常朝との死別

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1	0	0			1
感覚	1	0	0			1
精神	5	1	3			9
社会	1	0	0			1

HP	31
行動値	11
(非装備時)	11
戦闘移動	16
全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転：			芸術：			知識：レネゲイド	2		情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
鬼切の古太刀	白兵	1r+5		10		
▽59鬼切+無形	白兵	9r+5		10		侵：6(C:OB)Lv2+無形の影
▽59	白兵	12r+5		14		侵：11(C:OB)Lv2+無業の影+シャドースクラッチLv2+コンバットシステムLv2

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
遺産継承者/鬼切の古太刀	P	N		
マルコ前隊長/矢矧常朝(やはぎじょうちょう)	P 尊敬	N 劣等感		
マルコ班員	P 信頼	N 不安		
遺産“エレウシスの秘儀”(シナリオ)	P 執着	N 憎悪		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P：	

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
一閃	★	2	ﾒｼﾞｬｰ	武器	-	白兵		
効果：全力移動後攻撃可能								
C:ウロボロス	2	2	ﾒｼﾞｬｰ					
効果：C値-Lv(下限値7)								
無形の影	★	4	ﾒｼﾞｬｰ			任意		
効果：精神置換/1R1回								
シャドースクラッチ	2	2	ﾒｼﾞｬｰ			白兵		
効果：攻撃力+Lv/攻撃力Lv×2(無形の影と組み合わせ								
コンバットシステム	2	3	ﾒｼﾞｬｰ	-	-	白兵		
効果：D+[Lv+1]								
エクスマキナ	1	4	ﾒ/リ	-	-	白兵	ﾘﾐｯﾄ	
効果：達成値+10/シナLv回								
獅子奮迅	1	4	ﾒｼﾞｬｰ	武器	範囲(選択)	白兵		
効果：範囲(選択)攻撃、シナLv回								
ドクタードリトル	★							
効果：どこの言語もなんの生物の言葉も全てまるっと御見通しです								
真偽感知	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

一人称：俺/私(公務時)
二人称：～さん(ミス・～/ミスター・～)

愛称はフリッツ
物腰は柔らかく温厚。しかしその姿勢から他の班に比べて地味な印象を受ける。

出身はプロイセン(旧ドイツ)のケーニヒスベルク(現ロシア/カリーニングラード)と言っている。ロシアでしょと言うと少し苦い顔をする
古くからあるギナジウム(寄宿学校)の創設者であり軍人家系であるラハマン家に生まれ、家柄に従いギナジウムにて学問の他宗教論、倫理諸々を学び、その後、軍人として育った。
縁がありUGNを紹介され今に至る

レネゲイドコントロール自体は問題なかったもののいまいち芽が出ず、頭を悩ませていたが前隊長である矢矧常朝(やはぎじょうちょう)に見込まれマルコ班に入る。

5年ほど前に起きた中規模なレネゲイド災害で、多くの命と引き換えに矢矧常朝は命を落とす。
命を落とす直前、矢矧常朝の所持物であり遺産である鬼切りの古太刀を譲り受ける。
東洋の刀とはいえ不思議と手に馴染む感覚がしたと思うや否や、隊長を任命されてきた者共が各々に抱いてきたジャームに対する嫌悪感が、黒いもやとなり、自身の衝動を誘うようにフリッツに襲いかかった。
その時フリッツは身体がすくみ動けなくなったが、その場に居合わせていたアイシェが一言をあげたのが合図になり、矢矧の刀の型をとり、黒いモヤ、もとい憎悪の念は一閃し…その残像から生まれた黒い蛇が喰い尽くした。
蛇が喰らい尽くした後、どす黒いものがまた身体中を駆け巡るような感覚に陥ったが、それ以上に